7月
Jul. 2023
沖縄開教本部通信
vol. 106

ハイサイ沖縄

※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと

原体験、日常にある基地の風景
～ドラマ「ちむどんどん」には描かれなかった沖縄の現実～

―今回から四回にわたって、東本願寺沖縄別院の門徒総代をつとめていただいている照屋隆司さんに寄稿いただきます。沖縄人（うちなーんちゅ）の念仏者の視点から、米軍基地・非戦平和のことをお聞きします。

私は一九六七年に嘉手納空軍基地の門前街と言われる旧コザ市（現沖縄市）で生まれ、三歳の時に父母に連れられて神奈川県川崎市に移住しました。そして渡日七年目となる小学校四年生の夏休みに、生まれ故郷沖縄に帰ってきました。

那覇空港から沖縄市までの道中は、フェンスの向こうに青々とした芝生がどこまでも広がる米軍基地に囲まれていました。私達家族を乗せた親戚の車は、左にフェンス、右に英語の看板が連なるような道を一時間近く走り、やがてひときわ派手な英語の看板が立ち並ぶ沖縄市に入りました。しばらくして車は大通りから細い道に曲がりました。そこで景色は一変しました。そこは細い筋のような路が複雑に入り組みトタン屋根の小さな家々が密集するエリアでした。その中に私が生まれた家がありました。そこは青い海、青い空の沖縄・・・ではなかった。基地と居住地の違い。本土と沖縄の違い。想像を超えた故郷の状況に、当時小学生の私は言いようのない悲しい気持ちになりました。そこは米軍基地に押しやられ追い詰められている場所でした。

最近、「フェンス」（脚本：野木亜紀子）という沖縄を舞台にしたドラマが放送され話題となりました。少女を襲った性犯罪事件を描いたものでした。言うまでもなく「フェンス」とは米軍基地のフェンスのことです。このドラマは数ある「沖縄もの」の中で最も基地問題の実相を忠実に描いていると思います。そして、基地問題と性暴力の根っこが同じだということが痛いくらいに伝わってくるドラマです。

先日、私は那覇空港から沖縄市の実家までの道中のフェンスの長さを自分の車で測ってみました。総走行距離は23ｋｍ、時間は71分。そのうちフェンス沿い（米軍基地周縁）を走った距離は10．9ｋｍ（47.4％）、時間は41分（57.7％）でした。那覇市→浦添市→宜野湾市→北谷町→北中城村→沖縄市というルートのすべての市町村にわたって、那覇軍港、キャンプキンザー、キャンプフォスターというアメリカ軍海兵隊基地のフェンスが続いています。

（つづく）

車窓から望む海兵隊基地キャンプフォスターの一景。先が見えず、フェンスの有刺鉄線がこちらに向けられている。この基地は二市一町一村にまたがり内陸部から西海岸近くまで広がっている。

ハイサイ沖縄

「慶讃法要奉仕団」

今回の慶讃法要に、沖縄からも奉仕団として参加しました。コロナ禍により三年ぶりとなりました。

参加者は別院の門徒総代の方をはじめ、若年の方、またアメリカ出身の方と様々な方々との奉仕団となりました。本山に来られるのがはじめての方も多く、御影堂・阿弥陀堂の拝観や、御影堂門に登っての清掃奉仕、渉成園にも足を延ばし、貴重な体験ができたと話されていました。中でも、御影堂での法要に参加され、「こんなにたくさんの人と一緒に正信偈をつとめるのははじめて。迫力に感動した」と、本山ならではの光景に感慨深く感じておられました。

同朋会館に一泊した後は、京都国立博物館で開催されている親鸞聖人特別展、次の日は、大谷祖廟参拝から東山散策、鴨川の河川敷をゆったりと散歩したりと、有意義な二泊三日の旅となりました。

「花まつり」

4月8日、沖縄別院では花まつりが開催された。コロナ禍により昨年は見合わせたが、今年は感染症対策をして、希望者に限っての開催となった。二〇一七年に、彫刻家の金城実氏に制作していただいた木彫りの「誕生仏」を花御堂に安置し、甘茶かけではなく、皆に焼香を頂く形をとった。また出し物では、沖縄別院輪番の長谷暢氏が自坊に伝わる昔話、「たぬきの手習い」の紙芝居をとおして、コミカルなお話の背景にある人権の問題や、人間の差別心を子供たちと一緒に考えた。お昼には、別院職員特製のタコライスがふるまわれ、参加者が銘々でご飯をよそい、レタス・トマト・タコスミート・チーズ・サルサソースを好きにトッピングして、おいしくいただいた。来年はひろく周知して開催したい。

コラム「遠慶宿縁」

ここ数年「遠く宿縁を慶べ」(『教行信証』総序)という言葉が、様々な出来事を通して頭に浮かんでくる。本来は「信心を得ることができたならば、遠く宿縁を慶べ」ということであるが、人生の歩みの中で、仏教と関係して人と出遇うと、この語が思い起こされる。

今回は慶讃法要に合わせて北米から来日した二人の女性が、その足で沖縄別院を尋ねてこられた。二人は別院の御本尊や梵鐘を継承したハワイ・マカレー東本願寺の設立者である玉代勢法雲師の孫である。

真宗禁制の琉球王国が併合された直後、那覇に建立された琉球別院で法雲師は得度された。おそらく沖縄人初の真宗大谷派の教師である。彼はどういった経緯で僧侶となっていったか、それは本当に奇遇なご縁が重なったに違いない。後になぜかハワイでの開教に従事された。残念ながら設立された寺院は閉じられたが、今も彼の孫がカリフォルニアで真宗門徒として念仏の教えを聴聞されている。

この度の法要も八百五十年と長い歳月を掲げている。そこには年数だけで計り知れない数多くの人々が、念仏の教えに出遇い続けてきた歴史があったのだと、彼女ら来沖であらためて深く思い知らされた。

沖縄別院輪番　長谷　暢

ハイサイ沖縄　第106号　2023年7月1日　隔月1日発行　発行所：真宗大谷派沖縄開教本部　発行者：長谷　暢
〒901-2223　沖縄県宜野湾市大山2-32-21　TEL098-890-2490　WEB：http://shinran-oki.org/